

資料4-1
H28. 9. 16生活困窮者自立支援制度
全国担当者会議

桑名市学習支援事業 「学びサポート」の取り組み

平成28年9月16日

桑名市 保健福祉部 生活支援室



本物力こそ桑名力

桑名市の概要

桑名市は、平成16年12月6日に桑名市、多度町及び長島町が合併し、現在の「桑名市」が誕生。

市域は、三重県の北部に位置し、名古屋から25km圏にあり、東は愛知県、北は岐阜県に接しており、西はいなべ市及び員弁郡東員町、南は伊勢湾及び四日市圏域に接している。

地形は、養老山系の南東部に位置する山地・丘陵地帯と伊勢湾に面し、木曾三川と員弁川がつくる沖積平野、輪中に代表される低くて平坦な水郷地帯が広がり、西部丘陵地では名古屋圏でも有数の住宅団地や工業団地が形成されている。

面積は、136.68km²で県土の約2%を占める。

東海道五十三次の42番目の宿駅として発展してきた桑名市は、現在でも高速道路や国道、鉄道など主要幹線が集中する交通の要衝として発展を続けている。

現在は、「本物力こそ、桑名力。」をキャッチフレーズに、桑名の持つ本物の魅力と価値を内外に発信すべく取り組んでいる。

人口 143,088人
世帯数 57,345世帯 (平成28年3月末)
位置 東経136度41分 北緯35度3分



学習支援事業の立ち上げ



桑名市生活困窮者自立支援事業計画では、既存事業の制度や事業といった社会資源が不足する場合などには、既存事業の実施者からの意見を踏まえることとしてきましたので、既存事業の実施者を探索など行いました。

その結果、当該事業に関する既存のボランティア団体（中学英語数学学習教室、子ども学習会 こだま）があり、これが先駆的・先進的な役割も果たしていたことから、この団体に事業に対する意見を求めたところ、協力を得られることとなりました。

また、他市の先進事例等からは、教員OBによるボランティア実施も見受けられましたので、教育委員会を通じて、当該団体（三重県退職校長会桑名支部、三重県退職教職員互助会桑名地区）にも協力を依頼し、ご賛同いただきました。

さらに、この事業におきましては、福祉事業としての役割等もあることから、子どもと年齢の近い、大学生にも参加いただくため、近隣の四日市大学内のボランティアセンターにも協力依頼したところ、連携が叶うこととなりました。

これらのボランティア協力をいただきましたので、平成22年1月から訪問型を、同年7月からは集合型も実施している先進地福山市への視察なども行いました。

また、桑名市には数多くの既存の学習塾もありますので、これらに対する事業説明等として、全国学習塾協会三重県支部と事前協議を行う等、事業の円滑実施に務めました。

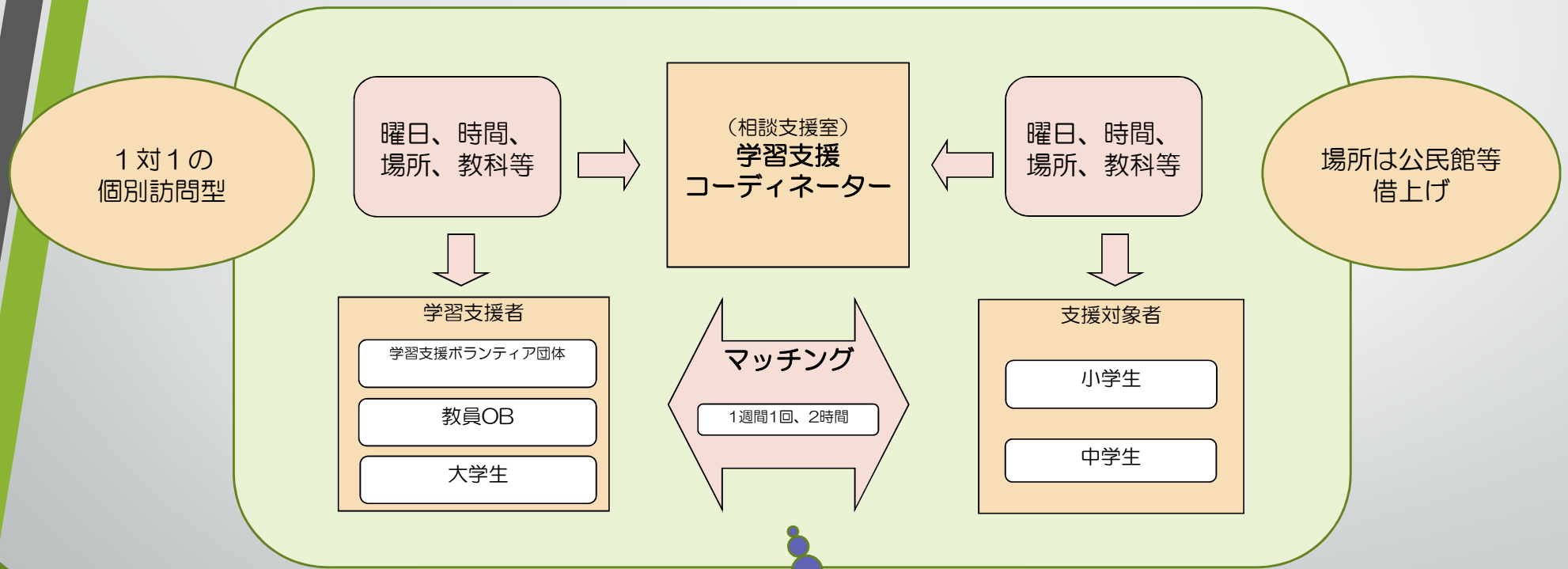
こういった流れも踏まえながら、生活困窮者自立支援法による学習支援事業の立ち上げを計画、検討し、平成27年11月から学習支援事業「学びサポート」を立ち上げました。

「学びサポート」の目的

子どもの貧困対策の推進に関する法律（平成25年法律第64号）、生活保護法（昭和25年法律第144号）、生活困窮者自立支援法（平成25年法律第105号）及び母子及び父子並びに寡婦福祉法（昭和39年法律第129号）に基づき、貧困の連鎖を断ち切るため、生活困窮世帯の子どもの自立支援の一環として、学習支援、学習環境の整備、進路相談等を実施することを目的とする事業です。

生活困窮とひとり親の両方を支援

「学びサポート」のイメージ



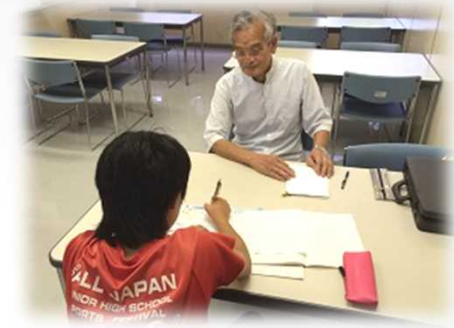
厚労省通知「自立相談支援事業とひとり親家庭等福祉対策の連携」を参考としました。

「学びサポート」の関係機関



桑名市全体で事業をするという視点から立ち上げには、
担当を超えた打合せの場を設けました。

連携1



平成27年度、合計4回の桑名市役所内の庁内関連部局との打合せ。

放課後児童クラブ、放課後子ども教室所管の教育部局、生活困窮所管の福祉部局が定期的(3月毎)に集まり事業への共通認識・理解を持つことができた。(第1回平成27年4月24日、第2回平成27年7月2日、第3回平成27年10月1日、第4回平成28年1月7日)

貧困の連鎖を断ち切るための生活困窮者自立支援事業計画の当局と桑名市子ども・子育て支援事業計画の教育部局・子育て、ひとり親支援部局とが、行政の縦割りを超えて「学習支援の進捗」をテーマに膝をつきあわせての話し合いを実現することができた。桑名市総合計画に掲げる「命を守ることが最優先」「子どもを3人育てられるまち」に根ざしています。

連携2



ひとり親支援部局との窓口連携。

児童扶養手当の担当部局で、母子自立支援員と女性相談員を擁する部局と連携しています。

(口頭、信頼関係による窓口連携です。持ちつ持たれつ協力できるところを一体的に！)

桑名市の母子自立支援員は、母子寡婦団体の受付窓口兼訓練給付金など、ひとり親世帯との関わりが多い点に着目、相談にみえる「ひとり親世帯」に対し事業周知と学習支援の希望の聞取りを依頼したところ、母子自立相談員と相談者の信頼が強いことも手伝い、多くの学習支援事業参加につながっています。

また女性相談員は、生活困窮者自立相談支援事業の支援調整会議のコアメンバーとして参加いただき、DVなど女性問題に意見等をいただいております。生活困窮事業を理解していただいているため、生活困窮の相談であれば、当部局へつないでいただいております。

連携3

既存の桑名市学習支援ボランティア団体との連携。

桑名市全体の学習支援の底上げを目指して。(学習支援員の相互登録)



桑名市の学びサポートの学習支援員として登録いただいた方と生徒のマッチングができず、学習支援員が活動できない状況が発生。一方で、既存の桑名市学習支援ボランティア団体は、教える教科の先生が不足している状況。

桑名市は、学びサポートの学習支援員に、既存の桑名市学習支援ボランティア団体の情報提供をしたところ、不足する団体での支援員登録が実現されました。適材適所の支援で、桑名市全体の学習支援の底上げに貢献しています。

また、学習支援員向けのスキルアップ研修を実施し、既存の桑名市学習支援ボランティア団体からも参加いただき、学習支援全体の資質向上を目指しています。

連携4

生活困窮者自立相談支援の連携。

そもそも桑名市の生活困窮の連携とは。

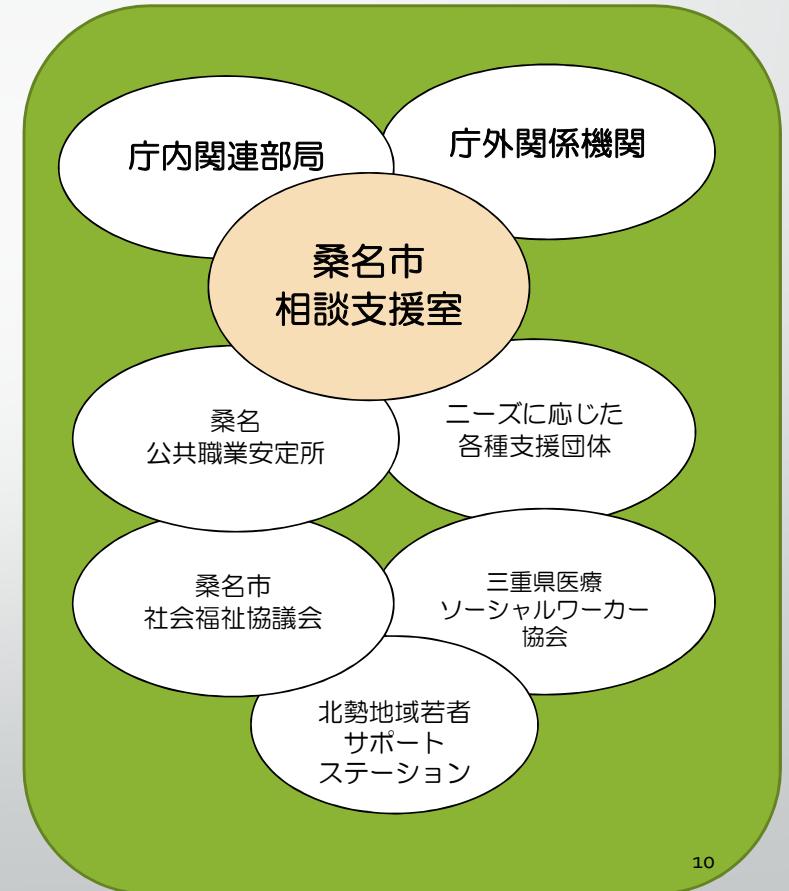
自立支援事業の推進にあたっては、庁内関連部局と緊密に連携することが必要であることから、部局横断的な体制を構築します。

庁内関連部局との連携には「発見」のための連携と「支援」のための連携が存在します。

「発見」のための連携では、対象者が自立支援事業につながるよう、紹介ルールを設定し、主管部局へつなげています。

また、「支援」のための連携では、対象者の状態にあった包括的な支援を実現するため、関連部局の策定する各計画も踏まえ、対象者に最適な各種制度や支援を提供できるよう努めています。

公共職業安定所、社会福祉協議会、若者サポートステーション、医療ソーシャルワーカー協会等、多岐にわたる関係機関との連携体制も構築していきます。民生委員児童委員のほかボランティアといったインフォーマル部門等、ネットワーク拡充に努めています。



学びサポート実施状況

学年	実施時間	教室場所	講師	4月	5月	6月	7月	8月	H28.8末現在		
									保護	一人親	困窮
中2	火 18:00-20:00	A苑	a講師	○	○	○	○		○	○	
中3	土 13:00-14:30	Bセンター	b講師	○	○	○	○	○			○
小1	土 13:00-14:30	Bセンター	c講師	○	○	○	○	○			○
中3	土 14:00-16:00	C会館	d、e講師	○	○	○	○	○	○	○	
小5	土 14:00-15:30	C会館	f講師	○	○	○	○			○	
中3	金 19:00-21:00	D公民館	a講師	○	○	○	○	○	○	○	
小2	月 15:00-16:10、金 15:00-16:10	E公民館	g、h講師	○	○	○	○	○	○	○	
中3	火 19:00-21:00	F公民館	i講師	○	○	○	○	○		○	
中1	水 19:00-20:30	A苑	j講師	○	○	○	○	○	○	○	
小5	土 13:30-15:00	C会館	a講師		○	○	○	○		○	
中1	水 18:30-20:00	G公民館	k講師		○	○	○			○	
小6	調整中									○	
小6	調整中									○	
中2	木 18:30-20:00	H園	k講師				○	○		○	
小6	木 19:15-20:15	C会館	a講師					○		○	
小4	調整中									○	
小2	水 15:15-16:45	D公民館	c講師				○	○		○	



「学びサポート」実施から半年

現在	半年前
関わった家庭に踏み入ることができ、学習支援を通して家庭支援が進む相互作用がある。	家庭に踏み入ることが困難な家庭であった。

現在	半年前
一定の教員経験者のボランティア登録があり、事業継続が可能(学生が少ない)。	1対1の個別訪問型の実施でボランティア登録も多いと想定。

現在	半年前
親の介入が少ない児童を学校や教育部門が心配し、世帯への学習支援(居場所)を依頼していただくようになる。	教育部門との連携は実際に働くのか。

現在	半年前
ひとり親家庭中心に居場所の依頼あり、中学生、小学生高学年、小学生低学年まで平均した年齢層が利用している。	中学生を中心とした支援と想定。

学びサポートの効果

- 貧困の連鎖を断ち切るという効果は、今すぐ測定することができません。
ただ学習支援を通して、その家庭とのつながりができることは確かで、家計相談支援事業や家庭への介入が可能となり支援が進む相互効果は計り知れません。学習支援を地域に根づく居場所づくり、高校等進学の両面を支援できる事業として適正な事業進捗をいたします。

他部門との連携の効果

- ことばの乱れや子どもの変化に気づいた学校や教育部門とつながり、家庭への支援が進む。
- 教育部門との連携の一環で教員OB会合へ出席し、制度周知と学習支援員申請一式を配布。
500部の配布を行い、後日、趣旨に賛同された方10名程が、学習支援員の登録をされました。
また、これがきっかけで知人紹介にて支援員登録いただくこともありました。

今後の課題

- 学習支援員の確保
教員OB会合と大学への制度周知で、22名の学習支援員登録を行いました。
しかしながら、一部の教科を教える人が不足するなどの課題があります。

居場所づくりのニーズ増加

- 高校進学を中心に中学生の支援を中心の事業想定、実際は、母子自立支援員や学校からつながる支援には、小学生も多く、居場所づくりのニーズが増えている。

ネットワークの拡充

- 行政だけでなく地域の学習支援のボランティア、その他子ども食堂等との連携の拡充。

三重県の子どもの貧困対策計画との協調

- 平成28年3月三重県計画が発表されました。計画と協調して事業進捗いたします。

三重県学習支援ボランティア事業費補助金の活用

- 三重県の生活困窮担当者会議にて紹介されたひとり親支援の補助金で、平成27年度桑名市も活用いたしました。
母子家庭等対策総合支援事業費国庫補助金にて実施。

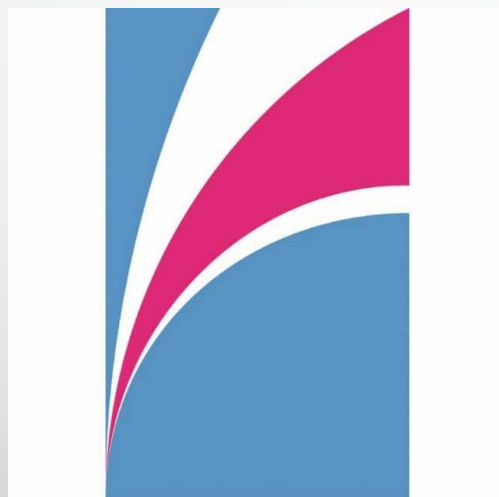
コーディネーターの感想

昨年参加した子の母親からこんな声をいただきました。「はじめは学習支援は面倒くさいと言っていたけど、今は言わなくなった。1対1の学習はよく分ると話している。」、その子は、高校合格が決まった後も、高校で困らないよう入学時期まで学習支援を続けました。

また、中二の兄と共に幼稚園から参加した子は、学習支援員さんとのトランプやゲームをすることから始め、興味を示さなかったひらがなを覚え、スムーズに小学校のスタートを切れました。この子に初めて会った時は、固かった表情も、最近学校で会ったときは笑顔で手を振りかえしてくれました。

多くの方のお力を借り、また、子どもと丁寧に向き合ってくださいる多くのボランティアさんのお力を借り、子どもたちに居場所、学習の場を提供できること本当にありがたく思います。学習支援を通して、子どもたちが自分の良いところを見つけて、自分のことを大切に思い大人になってほしいと願いコーディネートを続けています。

ありがとうございました。



本物力こそ桑名力